

～古代ロマン～

震災を経て姿を現した数々の出土品が 古の暮らしを物語る



慎重に進められる発掘調査



歴史的な発見に参加者もワクワク！

発掘調査現場を一般に開放

教育委員会では、普段触れる機会の少ない発掘調査の現場を、「文化の日」に合わせて11月3日に公開しました。

幸い好天に恵まれた当日は、約200人が来場し、専門職による発掘調査のようすや出土品の説明に耳を傾けていました。調査期間中(12月末を目途)は、現地にお越しただければ説明しますので、お気軽に声をかけてください。



発掘調査中の現場や発掘された土器についての説明に真剣に耳を傾ける参加者たち



益城中央小3年
寺本 航大 くん

「大つじいせきを見学して」

畑を1メートルくらいほったら、大昔の人がつかっていた土きや、家のあとや、かまどのあとが、きれいにのこっていたので、びっくりしました。大昔の人は、土きをどのように作ったのかなと思います。ぼくの家の下にも、土きが出てきたらと思うと、わくわくしました。

魅力のあるまちづくりや地域の未来を考える上で、自分たちの風土や地域の歴史を知ることがとても重要です。それが、そこで暮らすことに愛着や誇りを持つことへつながるからです。

今回、大辻遺跡の調査で得られた発掘調査資料のみならず、私たちの益城町に対する愛着や誇りが、みんなの心に大きく育っていくよう願って、創意工夫しながら大切な文化の調査、継承に取り組んでいきます。

二つ目は最も重要で、神戸市、大分県、鹿児島県、福岡県(熊本県教委へ派遣)から文化財専門職員の支援派遣を受けて、発掘調査に対応しています。こうした自治体間の協力を通して、お互いに刺激を受け合いながら切磋琢磨しているのです。

発掘は、知らずにいると一見、宝探しのように見えるかもしれませんが、好きな人が趣味で行っているわけでは決してありません。遺跡の調査等は、一度行ってしまつと元に戻すことができないので、作業をする人たちは、とても緊張しながら慎重に進めています。

町では、災害公営住宅の建設を含め、震災からの復旧・復興に際して、埋蔵文化財の調査等による遅れが生じないように二つの取り組みを行っています。

一つ目は、工事の発生しない設計期間内に調査を完了しよう心がけ、困難な場合は工事の一部と調査を並行させるなどの対応により遅れないようにしています。